

令和6年度第2回越谷市生涯学習審議会会議録

1. 期 日 令和6年(2024年)11月11日(月)
2. 会 場 越谷市役所第二庁舎5階 大会議室
3. 開 閉 会 開会 午後2時
閉会 午後4時
4. 出席委員 27名
板川委員、会田委員、宮園委員、山口委員、宮崎委員、戸張委員、杉山委員、
島村委員、大野委員、佐々木委員、中村(良)委員、石塚委員、石橋委員、
西村委員、飯島委員、濱野委員、星野委員、小林(昌)委員、夏目委員、
中田委員、北畠委員、青山委員、織田委員、小林(威)委員、住田委員、
真壁委員、吉川委員
5. 欠席委員 5名
中村(英)委員、岡本委員、若菜委員、計良委員、小林(大)委員、
6. 事務局出席者
小泉教育総務部長、川澄教育総務部副参事兼生涯学習課長、
福井 桜井公民館長、中村(則)新方公民館長、前田 増林公民館長、
綿引 大袋公民館長、谷口 荻島公民館長、中村(清)出羽公民館長、
新井 蒲生公民館長、清水 川柳公民館長、飯田 大相模公民館長、
齋藤 大沢公民館長、山納 越ヶ谷公民館長、内田 南越谷公民館長、
平林 北越谷公民館長
生涯学習課：北郷副課長、野中主幹、堤主幹(統括)、新井主幹、細井主査、
河井主事

会 議 次 第	
1	開 会
2	あいさつ
3	報告事項 (1) 令和7年度越谷市社会教育関係団体への補助金交付について (2) 令和6年度市政世論調査中間報告について (3) 令和6年度事業について
4	協議事項 (1) 令和7年度越谷市教育行政重点施策の重点事業(案)について
5	そ の 他
6	閉 会

会議内容

- 1 開 会 北郷副課長（司会）
- 2 あいさつ 青山会長
小泉教育総務部長

3 報告事項

（１）令和７年度越谷市社会教育関係団体への補助金交付について

○議 長 事務局に説明を求める。

○事務局 資料に基づき説明する。令和６年度補助実績額について、補助金の対象事業として計画されていた事業が中止となった場合は、今後、精算の可能性があることを説明する。各予定補助金額については、令和６年度実績額を基本として要求したいと考えているが、各団体の令和７年度事業計画及び要望額を踏まえて内容を精査し、全庁的な予算編成方針に従い、財政担当課との調整のうえで越谷市社会教育関係団体補助金等交付要綱に基づき決定することを説明する。

○議 長 委員に質疑等を求める。

※委員からの質疑等なし

（２）令和６年度市政世論調査中間報告について

○議 長 事務局に説明を求める。

○事務局 越谷市教育委員会では、５年に１度「越谷市教育振興基本計画」を策定している。昨年度の第１回会議で配付した「第３期越谷市教育振興基本計画」は、令和７年度までの計画となっており、令和８年度から「第４期越谷市教育振興基本計画」がスタートする。来年度その策定作業を行うにあたり、策定作業の前年度の市政世論調査に生涯学習活動に関する調査項目を入れ、市民ニーズを把握することとしている。

資料１について、まだ内容を校正中のもので、一部誤字なども見られるが、ご了承いただきたい。

資料に基づき調査結果を説明する。

○議 長 委員に意見等を求める。

○委 員 やっぱりかなというのが率直な感想である。説明のとおり、１ページにある生涯学習活動の経験が、令和元年度の３８．９％から令和６年度は２８．６％に下がっている。コロナの影響だけなのかはよく分からない。コロナ禍の間、なるべく外出は避けるようにしていたと思うが、現在でも、以前のように活動が戻ってきていないというのが、率直な経験上の認識である。

このような状況で、これから越谷市として、どのように生涯学習の活動をしていただける方を増やしていくかが大事である。生涯学習クラブ・サークル・団体ガイドやリーダーバンクなど発行されてはいるが、これだけでこの減少傾向が、以前のように上昇するのか疑問である。今までは６０歳定年であったが、これから７０歳定年になっていく中で、やはり中高年の生涯学習、趣味やスポーツなど、それなりに

活動を促すような仕掛けを作っていく必要があると考える。学識経験者である議長と副議長に、有効策などあればお聞きしたい。

○議長 行政だけが提供するのでは難しいと考えている。各公民館で様々な事業をやっていただいているので、より質を上げていくこともとても重要だと思う。市内各地域の団体の方、NPOの方、子ども食堂など、様々な活動があるが、そのつながりを高めていく必要がある。また、必要なことでもあるが、行政には縦割りの部分が多く、市役所内でも、他のセクションで学習機会に近いものを行っているところがあるので、似た事業をやっている部署をうまくつないでいくということが、これから課題になるだろうと考える。

他の方も、ぜひいいアイデアがあれば教えていただければと思う。

○副議長 今まで住民は、基本的に行政から何かをやってもらおうという姿勢の方が多かったのではないかなと思う。住民と行政と協働でやるという言葉は、20～30年ぐらい前からあり、行政だけではできないところを住民が補足・支援していくというような意識はあるが、なかなか広まっていかない。やってはいるが、広まり具合が本当に少しずつなので、住民はどういう動きをすれば行政のサポート・支援ができるのか、両者が遠慮し合わずに意見を出し合い、活動に結び付けていくことが今後重要になってくるのではないかなと思う。

○委員 公民館にはお世話になっており、自身の団体も趣味の世界で活動させていただいているが、どうしても限界がある。チラシを公民館に置かせていただいているが、限られた人しか来ていない感じがする。昨年の審議会の中でも提案させていただいたが、人の出入りの多いスーパーや、商店などの一角にPRするラック等を置いてもらい、市がお願いしてルールを作って、チラシを置かせていただくなど、民間と連携して広がりを作っていただけることができないかと考える。

○議長 公民館は常連に偏りがちというのは全国的にもよく言われており、普段使っていない人たちに、どうやって講座に来てもらうか、利用してもらうかということが、どこも課題になっている。また、年齢層も偏りがちであるため、普段使っていない人たちとどうつながっていくかということは課題と言える。

○議長 2点質問がある。1点目は、教育振興基本計画や総合振興計画にKPI、つまり数値目標があったと思う。あまり目標に縛られても仕方ないと思うが、今回出た結果が今まで設定している数値目標とどう関わっているか分ければ教えていただきたい。

2点目は、誰が学べていて誰が学べていないのか、誰が地域と関わっていて地域と関わっていないのか、を考える際に、様々な格差のことが社会でも課題となる。例えば、所得などを質問項目で聞いていると、所得によっては学ぶ余裕がある人となない人がいそうだななど、行政が今後、何を重点的に実施するかヒントになるのではないかなと思うが、そのような数字が取れているか、分析の可能性はあるか、分かれ

ば教えていただきたい。

○事務局 1点目の目標値については、実際に市の総合振興計画の中でも設定した上で進めてきており、教育振興基本計画の中でも設定している。計画策定時から計画を進めるまでに間隔が空くため、今回は計画策定をする際にコロナ禍の影響が重なり、コロナ禍明けの数値も目標を下回っているという状況がある。計画の目標値を設定した上で、今回の中間報告の数字とも比較をしながら事業を進めている。

2点目の所得については把握していない。

○議長 目標達成してないと言いたいわけではなく、このような数値目標がどこでも当たり前になる中で、状況は5年たてば変わるため、適切な目標とのつきあい方をしていく必要があると思っている。来年度以降の計画策定の際に、どのような目標なら目指しやすく適切であるかということも含めて、あまり厳しくやりすぎても仕方がないが、作ったものを忘れてしまうというのもよくないため、そのあたりを引き続き議論していただけるとよいと思う。

○委員 1ページの調査の仕方について、3回とも同じ対象で同じ調査方法で行ったのか。「生涯学習活動の経験」について、平成27年度から令和元年度で急に経験者が増えているが、むしろ、今年度は平成27年度に戻ったととれるのではないか。どのような調査方法か。

○議長 誰が対象かが分かるとよい。どのように調査対象を抽出しているか、回収率も分かれば併せてお聞きしたい。

○事務局 市政世論調査は、毎年無作為に5,000人に郵送で調査をかけている。回答率はおよそ50%程度となっている。

○議長 無作為であると年齢層や性別もバランスがよくなると思う。郵送で調査をして、回答した人が大体半分くらいという事である。

確かに、1ページの調査では令和元年だけが突出して5年で10ポイントも伸びているため、10年前の平成27年度と比べれば微増しているのではないかという解釈も、重要なご指摘である。

(3) 令和6年度事業について

①社会教育について

ア 越谷市人権教育推進協議会

○議長 事務局に説明を求める。

○事務局 資料に基づき説明する。

○議長 委員に意見等を求める。

※委員からの意見等なし

②公民館について

ア 公民館主催事業

各公民館長から資料2に基づき令和6年度の特色ある事業について説明する。

○議長 委員に意見等を求める。

○委員 10月12～13日、5年ぶりに越ヶ谷秋まつりが大盛況にて開催された。これに伴い、越ヶ谷地区では秋まつりを知っていただくために、秋まつり講座ということで、木遣りと秋まつりの説明会を開催した。定員よりもたくさんの方に来ていただき、秋まつりや木遣りについて勉強してから秋まつりに参加していただくことができた。今年度秋まつりがあるということで開催した事業だったが、せっかくの地域文化の継承ということで、秋まつりや地域のお祭り等が開催されなくても、文化の勉強ということで例年の事業として開催していただけると非常にありがたい。

個人的意見としては、越ヶ谷秋まつりが5年ぶりや4年ぶりではなく、定期開催という形で、越谷市民の方たちによりどころとして参加していただけるとありがたいと思っている。

○委員 青年期16歳から29歳の中に「資産運用講座」とあるが、これをやった目的は何か。また、30歳から59歳で「終活講座」とあるが、この年代を対象に実施する目的を知りたい。

○事務局 川柳公民館の終活講座については、スポーツレクリエーション推進委員会の方から、親世代との世代交代について、どのようなことをしたらよいかという意見があったため、青年期の事業として実施した。

○議長 本人の終活というよりは、子どもの立場での終活講座であったという事かと思う。

○事務局 新方公民館の資産運用講座については、青年期の事業として実施しているが、実際は18歳以上を対象に幅広い年代方に参加していただいている。

○委員 公民館職員は、1日中土日も働いていて、大変だといつも感じている。乳幼児期や少年期の事業はその保護者も一緒に来たり、高齢期の事業は孫を連れて遊びに来ることもあると思うが、青年期については、そのようなこともなく、先ほどの資産運用講座も青年期以外の世代も来ているという事なので、事業数を減らしてもよいのではないか。忙しい中で無理にやらなくてもよいのではないかと思う。

○議長 事業数が多すぎて負担があり、1つ1つの事業が丁寧にできないことや、親子や多世代が来るような事業ではない青年期の事業が必要かというご指摘かと思う。

○委員 現在、人材のマンパワーの不足というのは全国的に言われていて、特に埼玉県下では比較的緩やかに人口減少している状況だと思う。南越谷公民館と蒲生公民館は事業回数が100回近く行えているがどのような工夫をしているのか。この人数が恐らく先ほどの市政世論調査に直結する数字だと思うが、この目標数値はそれぞれの公民館で持っているのかをお聞きしたい。

○事務局 南越谷公民館では、事業本数としては他の公民館と同様に20程だが、通年事業の本数が多いため、回数が増えている。通年事業は、年度末か4月頭に参加者を募集し、その人たちを対象に毎月開催という

事業が多い。

年度当初に集めた参加者に対して、年間通して様々なテーマを設定し、多くのことを学ぶ機会を作れていると思うが、通年ではなく、いくつかに分けて募集する方法もあると思う。

○事務局 蒲生公民館でも、1つの事業の中で、例えば少年期の「がもう寺子屋」では毎月開催となっているため、回数が多くなっている。また、高齢期の「がもう楽生塾」も毎月開催している。全体的に回数が多いが、蒲生公民館は越谷市生涯学習推進会の協力により、事業を多く開催している。事業ごとにアンケートなどで意見も聞き、それを反映しながら次年度につなげて、ニーズの多い事業は増やし、あまり人気のなかった事業は来年度開催しないようなやり方で進めている。

○議長 13地区全体で、講座数の目安があるかどうかという質問について、事務局に意見を求める。

○事務局 生涯学習課から公民館に対して、何事業必ず実施するようにという明確な目標値は提示していない。地区により様々な実情があり、ニーズも異なるため、地区の方が求めていることをアンケートや各地区の公民館運営協力委員の会議などで聞いてもらい、地区ごとに実情に合わせた講座を実施してもらっている。

○議長 やみくもに事業数を増やせばいいという訳ではなく、限られた事業予算や人員で、どのように効率的に講座を実施していくかは重要だと思う。

また、世代ごとの事業設定自体が業界的にはかなり古典的であり、青年期は要らないという話ではないが、青年期で設定している講座も、青年以外の方が来るわけなので、対象を世代別に無理やり当てはめて講座設計をしていく必要がどこまであるのか、時代的にも更新していないかもしれない。

その上で、地域の青年に課題があれば、居場所作りや就労関係もあるため、公民館でできることがあれば青年期の講座をきちんと実施すればよいし、逆に多世代や親子など、世代区分を超えるものがあれば、枠組みより意味があるものを選んでいくというのも、今後は必要なことかと思う。世代別にするのは分かりやすくてよいし、バランスも取った方がよいのは事実であるため、だめというわけではないが、業界的にはかなり古典的であると言える。

○事務局 先ほどの目標値について、教育振興基本計画では、市が主催する各種学級・講座の回数ではなく参加者数を目標にしている。

計画立案時の現況値として令和元年度の数値が年間2万9,968人、令和7年度末の目標値として年間3万8,000人という値を設けており、先ほどもKPIという話が出たが、令和元年度からどれだけ増やすかという観点で目標を立てた。令和2年・3年で、様々な事業ができずに数値が落ち、令和3年・4年・5年と徐々に回復基調ではあるが、令和5年度にコロナが5類に引き下がったタイミングで一

気に回復するという形までにはなっていない。恐らく市民のライフスタイルが変わったなどの要因もあるかと思う。

○議 長 確かに、講座数も重要だがそれ以上に、どれぐらいの市民の方に参加いただけるかも重要である。

先ほどの南越谷公民館と蒲生公民館の説明にもあったように、まちづくりも兼ねて、ある程度継続性のある事業を実施する事にも意味があるが、あまりやりすぎると、新規の方が来づらいという問題もある。単発の事業と長期的な事業を、バランスを考えて実施できるとよい。

○委 員 委員になって、文化事業がこれほどあるという事を初めて知った。地区の文化祭や運動会なども多く、コミュニティ推進協議会でも多くの活動を行っている中で、これ以外にも公民館で事業を行っていることを知らなかった。こしがやミュージックフェスタのような全体で実施するものはよいが、これだけ多くの事業を行っている、それぞれの事業に人数が集まらないのではないかと、公民館職員の方の大変さを知った。

○議 長 越谷市は、公民館以外にも地区センターとしての機能も有しているため、この審議会で協議している以外にも、多くの業務がある。

○委 員 先ほどの、青年期の事業はあまり必要ないのではないかという話について。

少年期については、夏休みの子ども学習室ということで部屋を開放していると思う。中学校受験、高校受験、大学受験の子どもたちも、学校や塾や予備校などが無い時に、なかなか勉強する場所がない。前は図書館などを使えたが今はそれも難しく、ファストフードなどの店に行ける子はいいが、駅のちょっとした机を探して勉強しているなどの話もよく耳にする。部活動を引退した9月頃から中高生の皆さんは受験勉強が始まるので、ぜひ公民館の部屋が空いているのであれば、開放してほしい。塾や予備校に行かない場合は、自宅には誘惑も多いため、1か月何万円かを払い、自習室を借りているという状況の家庭も周りにたくさんある。ぜひこういうところを考えていただけたら、1人の親としてありがたい。

○議 長 自習室も中高生にはとてもニーズがある。蒲生公民館では青年期の事業として学習室の開放の記載があった。

実際、全員が部活に入っているわけではないと考えると、家庭と学校の往復以外には居場所が全くないような中高生はたくさんいるため、公民館ができることは多いと考える。上手に若者と付き合っている公民館もあれば、なかなか若者とは縁遠い公民館もあり、有名な事例もいくつかあるが、うまく思春期以降の人たちとつながれる事は重要である。自習室は、そういう意味では良いコンテンツの一つであり、中高生が地域の中に入っていけるきっかけにもなると、なお良いと思う。

イ 生涯学習課との連携事業

二十歳のつどいについては、例年どおり地区の皆様にご協力いただきながら、市内11会場において式典と催し物を実施する予定である。現在、各地区において実行委員会が開催され、当日に向けた協議、準備を進めている。

人権教育推進事業の家庭内人権教育事業、公民館における人権教育推進事業、人権教育指導研修事業については、地区により予定時期が異なるが、随時実施している。また、本日「地区センター・公民館だより」を入れてお配りしたクリアファイルは、小中学校にご協力いただきながら、児童、生徒から募集した人権標語を使用して作成した人権教育の啓発品であり、講座開催時にこのような啓発品を講座の参加者に配付して、人権に係る啓発を図っている。

③家庭教育について

小学校子育て講座は新入学児童の保護者を対象とし、各小学校の就学時健康診断日に、保護者の待ち時間を利用して講義形式で講座を開催している。

※資料作成後、講義形式の学校が1校追加となった講義形式22校中19校実施済みと記載があるが、講義形式の実施は23校となり、すべて実施済みとなった。

講義形式で実施できない学校では、家庭教育に関する資料を配付した。講義形式の場合、多くの講座でグループワークを実施しており、参加した保護者同士が意見交換して打ち解け、今後子どもが同じ学校に通う保護者同士のつながりができる場としても有意義な機会となるよう、実施にあたっては、学校及び講師と内容や実施方法について詳細な打合せを行っている。また、資料配付については、講義形式での実施の有無に関わらず、全校で実施した。

こちらの資料は3年に1度内容の見直しを行っており、今年度は見直しの時期であるため、家庭教育アドバイザーの方に監修いただき内容を更新した。当日配付資料として同じものを配付しているのでご参照いただきたい。資料の中に二次元コードを記載しているが、資料の説明動画にアクセスできるようになっている。この動画の作成も、家庭教育アドバイザーの方にご協力いただいた。こちらは市のホームページで公開しておりどなたでも閲覧することができ、講義形式の講座を受けられなかった方も、こちらの動画からより理解を深めていくことができる。

中学校子育て講座については、来年2月に予定しており、講義形式での講座を実施予定だが、学校と調整しながら進めていく。

私立幼稚園協会との共催で開催している子育てフォーラムは、育児不安や子育ての悩みを持つ保護者の一助となるよう、子育て支援の一環として開催した。

④その他生涯学習の推進について

ア 育成事業

生涯学習リーダー養成講座実践編は資料のとおり実施した。

また、生涯学習ボランティア養成講座入門編は資料のとおり実施予定である。本事業は、講座で学んだ内容を実践する場として、例年、生涯学習フェスティバルにおいてボランティアの体験を案内し、希望者に参加いただいている。実際に体験いただくことで知識の定着を図っている。

イ 市民及び大学等との事業

こしがや市民大学は、資料のとおり第1回特別講座を実施した。詳細は「こしがや市民大学第1回特別講座パンフレット」をご参照いただく。

10月22日（火）から第1期講座がスタートし、全6回を実施予定としている。詳細は「こしがや市民大学第1期講座パンフレット」をご参照いただく。なお、第2回特別講座は2月23日（日）に生涯学習フェスティバルと同日開催、第2期講座は2月3日（土）から全6回の実施予定としている。第1期講座は平日開催、第2期講座及び特別講座は土日開催としており、幅広い方にご参加いただけるよう企画している。

生涯学習フェスティバルについては、2月23日（日）に実施することとして、市民組織である越谷市生涯学習推進会との会議において協議し、準備を進めている。

⑤文化振興事業について

ア 芸術文化活動の推進

県展記念作品展については、資料のとおり開催し、今年度も飲食を伴う出品者交流会は中止した。

市民文化祭については、開催に向けて準備を進めている。詳細は「越谷市市民文化祭チラシ」を参照いただく。今年度から小中学生を対象に華道体験コーナーの開設を予定している。

市美術展覧会については、資料に記載の期間での開催に向けて現在準備を進めている。参考に昨年度のチラシを配付している。

文化総合誌「川のあるまちー越谷文化」の発行については、今回で第43号となるが、予定どおり発行に向けて事務を進めている。販売拡大を目指し、郵送販売等を含めた販路の開拓および市の広報媒体を最大限に活用した情報発信を行うこととしており、引き続き、冊子販売委託先の増加に向けた調査等を行う。

イ 特色ある地域文化の振興および普及

能楽体験事業については、資料のとおり開催した。

郷土芸能体験教室については、資料のとおり開催し、越谷市木遣保存会による越谷の木遣歌の説明、体験、実演披露および越谷龍虎太鼓による和太鼓の説明、体験を行った。

こしがや薪能及びこしがや能楽の会については、資料のとおり開催した。

※こしがや能楽の会の入場者は461人となった

郷土芸能祭については、資料のとおり開催を予定している。

- 議 長 委員に意見等を求める。
※委員からの意見等なし

4 協議事項

(1) 令和7年度越谷市教育行政重点施策の重点事業（案）について

- 議 長 事務局に説明を求める。
- 事務局 教育行政重点施策について、「令和6年度越谷市教育行政重点施策」を用いて改めて説明する。4、5ページになるが、本市の教育分野における最上位計画として、「第3期越谷市教育振興基本計画」を策定し、令和3年度から令和7年度までの5年間を計画期間としている。本計画では、第2期計画に引き続き、生涯にわたり学んだ成果を地域社会に還元できるような「循環型生涯学習社会」の実現をめざし、教育施策全般について、学校教育・生涯学習・生涯スポーツの3つの分野から、「基本目標」を3、「施策の方向」を10定めている。この基本理念のもと、当該年度の教育行政運営の基本的な考え方及び基本目標ごとの主要施策を示したものが「教育行政方針」であり、教育行政方針を受けて、当該年度、特に重点的に取り組む教育施策の具体的な内容を示すものが「教育行政重点施策」である。このうち、生涯学習に関しては、8ページになるが、「基本目標2、生涯にわたる学びを充実し、地域文化を振興する」とし、その実現に向け、2つの施策の方向、6つの施策を展開している。その中で、本審議会においてご協議いただく範囲は次のとおりである。

2-1 生涯にわたる学びを進める

- ・2-1-1 生涯学習活動の充実と学習成果の活用
- ・2-1-2 社会教育における人権教育の推進

2-2 文化活動を充実し、郷土の歴史を継承する

- ・2-2-1 芸術文化活動の推進
- ・2-2-2 特色ある伝統文化の振興

9ページには、各施策に対応した主な取り組みを掲載している。

31、32（下部）、35、36ページには、各重点事業の具体的な内容を掲載している。

なお、教育行政重点施策は、令和6年度に特に重点的に取り組む内容を定めるものであり、全ての事業を掲載しているわけではない。

以上を踏まえて、資料に基づき説明する。令和7年度重点事業（案）として、9つの事業を掲げている。

重点的に取り組む具体的な内容のうち、拡充事業が2点ある。

- ・No.3 各種学級・講座の開催

各事業を広く市民に周知するため、生涯学習メニュー「TRY」の発行回数を年2回から年3回に増やし、情報発信力の強化に努める。

・No.6 市民の創作意欲の向上と普及を図る発表機会の提供
令和7年3月に発行する「川のあるまちー越谷文化」最新号（第43号）より郵送販売を開始することで、販路の開拓を進め、本誌のさらなる周知と販売数拡大を図る。

本日協議いただいた後、教育委員会会議における協議を経て、第3回審議会において最終的な内容をご報告させていただく予定である。

○議 長 委員に意見等を求める。

○委 員 「川のあるまち」は、自治会館に置いてあり、会員が読めるようになっている。

○事務局 花田苑は、教育委員会と公園緑地課どちらの所管かお聞きしたい。
能楽堂は教育委員会の生涯学習課、花田苑は公園緑地課の所管である。

○委 員 普段から親しめるようにするのであれば、例えば花田苑の四季折々の花（紅葉がきれい、梅雨ときには菖蒲がきれい等）を紹介して、普段から市民が喜べるような体制を整えないと、なかなか能楽堂だけでは敷居が高いと思う。

先日、千日紅という花がきれいだと東武よみうりに載っており、見に行ってきた。その前は川口の方へ、あやめがきれいだから見に行った。能楽堂でも、花や庭園をきれいにしてもらって、市でそのようなPRを行えば、能楽堂に足を運ぶ人が増えるのではないか。縦割りではない計画をして、市民が行きやすいようにしてほしい。

○議 長 2-2-2に関わると思う。能楽堂の活用を考える上では、単独の縦割りではなく、全体で連携しながらやっていく方が有効であろうというご指摘である。

○事務局 ご指摘のとおり縦割りのよくないところが出てしまったと思う。公園緑地課と連携し、よりよい施策を展開したい。

○議 長 他に、本日の議題すべてに関して委員に意見等を求める。

○委 員 子育てフォーラムの参加とご協力について、事務局にお礼申し上げる。参加人数はまだ確定していないが、今年度は三遊亭楽生さんにお越しいただき、非常に好評だった。有名な講師に来ていただくことで、最後の保護者の方のお見送りの際にも長蛇の列ができ、1人1つ、講師の名刺シールを配付し、非常にすばらしい学びの機会になったのかなと考えている。

今回の件についての懸案事項として、広報が難しいと考えている。乳児の園児数が減ってきてはいるが、越谷市だけで3,000人程のメンバーを抱えており、実際に来たのが10%の300人程度であった。全員に来ていただくことは不可能だとは思いますが、インスタグラムも始めたが、ペーパーでもインスタグラムでも周知が難しいというのを非常に痛感している。今後も努力するので、子育てフォーラムのご協力を引き続きお願いしたい。

5 その他

○司 会 委員、事務局に連絡・報告等の事項を尋ねる。

○委 員 日頃、地域の方や公民館館長をはじめ多くの方に子ども会育成連絡協議会の子ども会活動や学童野球について応援いただきお礼申し上げます。今年の夏、山野ガッツというチームが県大会で優勝し、学童野球の甲子園と言われている高円宮賜杯大会に出場することができた。2回戦で優勝チームと対戦し、残念ながら負けてしまったが、多くの皆様にご支援いただいたことをこの場を借りてお礼申し上げます。今後とも地域の子どもたちの育成のため、ご支援、ご協力、をお願いしたい。

○委 員 先程の報告事項でもあったが、PTA連合会の補助金の一部を使い、広報誌を作成しており、本日配付した。例年は2万3,000人の会員にのみ配付しているものだが、将来を担う、越谷市の宝でもある子どもたちを毎日指導してくださっている校長先生と、地域と学校を結ぶPTA代表の会長の紹介号となるため、ぜひ、審議会委員の皆さんにもご覧いただきたい。

○事務局 連絡・報告事項を3点伝える。

1点目として、「令和6年度東部地区社会教育関係委員・職員研修会」について、令和7年1月29日（水）に、三郷市文化会館において開催が予定されており、講演会と、行田市及び三郷市の実践発表が行われる。主催の埼玉県教育局東部教育事務所から開催案内を受理し次第、委員へ郵送にて案内する。

2点目として、第3回会議を来年3月に予定している。日程等の詳細が決まり次第、郵送で通知する。

3点目として、本日配付の資料は、生涯学習の参考として情報提供させていただいたことを説明する。

6 閉 会 北畠副会長